



TITLE:

A Study on the Conservation Planning of
Yogyakarta Historic-tourist City Based on
Urban Space Heritage Conception.(
Abstract_要旨)

AUTHOR(S):

Laretna, T.Adishakti

CITATION:

Laretna, T.Adishakti. A Study on the Conservation Planning of Yogyakarta Historic-tourist City Based on Urban Space Heritage Conception.. 京都大学, 1997, 博士(工学)

ISSUE DATE:

1997-03-24

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/202306>

RIGHT:

氏 名	ラレトナ T. アディシャクチ Laretna T. Adishakti
学位(専攻分野)	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	工 博 第 1611 号
学位授与の日付	平成 9 年 3 月 24 日
学位授与の要件	学 位 規 則 第 4 条 第 1 項 該 当
研究科・専攻	工 学 研 究 科 環 境 地 球 工 学 専 攻
学 位 論 文 題 目	A Study on the Conservation Planning of Yogyakarta Historic-tourist City Based on Urban Space Heritage Concep- tion. (都市空間文化財の概念設定に基づく歴史観光都市ジョグジャカル タの保全計画に関する研究)
論文調査委員	(主 査) 教 授 三 村 浩 史 教 授 岡 崎 甚 幸 教 授 高 橋 康 夫

論 文 内 容 の 要 旨

都市の景観についての関心は初期の視覚的美観の整備を重視するものから、現代では歴史的文化的意味の理解へと展開している。また、寺社、宮殿、庭園などの傑出した文化財単体のみを「図」として注目してきた段階から、特徴ある市街地・集落の町並み、都心部や文化財境界などの「地」模様が有する意味への関心が広がっている。

本論文は、このような都市アイデンティティを表出する歴史的文化的景観に着目して、その解説方法と保存計画の在り方を研究した結果をまとめたもので、序章と本文3部6章と結章で構成されている。

第1章では、研究の目的と主な方法について述べている。すなわち、都市の歴史的文化的景観の位置付けと定義について、世界諸国の対応の軌跡を、ユネスコやイコモスなどにおける国際的論議を系統的に分析している。その結果、文化財保存の対象が、特定の文化財単体から、次第に特徴ある地域景観、町並み、自然環境などの文化的景観へと拡大されてきたこと、かつ、現在から未来へと継承されるべき文化遺産(Heritage)として理解されるに至った過程を詳説している。その上で、既往の景観構成論や環境知覚論を広く検討して、本論の目的に適うものとして、複合要素により構成される空間セッティング(Urban Setting)を「都市空間文化財」という形態学的な概念と設定して、その解析方法を考案している。

第2章では、多数の外来文化を受容して、歴史的文化的成層解析にふさわしい事例研究対象として、インドネシアの古都ジョグジャカルタ市を選定した理由を述べている。

第3部における第3章では、都市の歴史的文化的成層構造を知るための時代区分として、ジャワ王宮期、イスラム期、オランダ統治期及び近・現代を設定し、各時代の政治体制と社会階級構成が都市空間文化財の成層に及ぼした影響を記述している。

第4章では、都市空間文化財の事例として、カースト体制下の王宮都市における都市空間形成過程を分析している。すなわち、(1)最大の土地所有権者であるスルタンによる恩恵的な居住権・土地権の付与によ

る土地利用、都市施設配置、複合的社会構成の居住地の形成、そこで保持されている都市空間文化財の価値を明らかにしている。また、都市の植樹についても、伝統的な意味付けのある樹種配置が行われた空間セッティングの伝統を明らかにしている。

第5章では、都市を構成するいくつかの居住地空間、すなわち、スルタン王制下での、貴族邸宅を核とする界限地区、王宮庭園遺跡及び旧城壁遺蹟にスクォッターリングしている地区について、文化財と人々の居住とが共存できる条件とその関係の自律的維持力を確かめている。

第6章では、都市空間文化財を保全し活用する主体と制度を考察している。多くの開発途上にある都市では、行政制度としての文化財保護や景観・環境保全及び都市計画制度が未発達である。しかし、ジョグジャカルタ市の実態調査から、スルタン、公共機関、コミュニティ、個人、ボランティア団体はそれらを所有し使用することで、歴史的文化要素を保全する役割を果たしていることを明らかにした。この事実から出発して、(1)都市空間文化財資源の内容と分布の資料を作成し公示すること、(2)将来にむけて都市の保存的開発のビジョンを明確に描き提示すること、(3)上記各主体の役割の自覚を求め、行政が支援体勢を整えることから着手するのが、取組みの実際的发展パターンであると結んでいる。

論文審査の結果の要旨

都市の歴史的文化財への関心は、特定の単体から、近年では、複合的な要素で構成される空間構成へと及んでいる。本論文は、都市空間の中に重層的に織込まれている歴史的文化価値を「都市空間文化財」という新概念でもって解析し、保存的開発計画のための構造モデルとしての提示を試みたもので、見出された主な成果は、次のように要約される。

1. 既往の学説と国際的論議の系統的レビューに基づき、都市空間のアイデンティティを特徴づける「都市空間文化財」という新概念を設け、その存在を認識する方法として形態学的な空間セッティングに着眼する解析方法を開発した。
2. 事例研究の対象として、固有文化を基調に、ヒンズー・中国・イスラム・オランダ・近代化という複数外来文化の影響を多様に受容してきたインドネシアの古都ジョグジャカルタ市を選定し、時代ごとの空間セッティング・レイヤーを作成し、都市空間文化財としての重層的構造モデルを視覚的に認識可能に表現した。
3. 多数の主体が所有し利用する都市空間文化財の保全リンケージについて、同市内の典型地区を精査し、伝統的土地制度の下での維持力の均衡が、近代化の進展とともに不安定化し、計画的保全政策を必要にする発展途上期の課題を明らかにした。
4. 文化財保護・都市計画等の行政制度が未発達の状況下でも、都市空間文化財の存在の市民的認識、明確な将来ビジョン及び各主体の役割自覚を促すことが持続的な保全にとって効果的という考察結果を導い

た。

以上、要するに本論文は、歴史的文化的景観の価値を、都市計画に総合する理論と技法について、発展途上期における新しい局面を拓いている。

よって本論文は、博士（工学）の学位論文として価値あるものと認める。また平成9年2月24日、論文内容とそれに関連した事項について試問を行った結果、合格と認めた。